

トピックス

土木工事写真コンテスト

昨年募集をいたしました第一回土木工事写真コンテストはおかげさまで81件のご応募を頂きました。今回、当コンテストでは土木写真家の西山芳一氏をアドバイザーに迎えて審査委員会を行いました。

厳正なる審査の結果、最優秀賞には寿建設株式会社 森崎英五朗様ご投稿の『貫通』に決まりました。森崎様の作品は本誌表紙と当会ホームページにて紹介しております。西山氏には各入賞作品に個別のコメントも頂いております。そちらはホームページに各写真とともに掲載しております。合わせてご覧下さい。

●西山芳一氏 プロフィール

1952年 東京都大田区生まれ。

1975年 東京造形大学デザイン学部写真学科卒業。

写真集

2002年11月 「タウシュベツ」 講談社

2003年 3月 「水辺の土木」 INAX出版

2013年10月 「美しい土木・建設中」 パイ
インターナショナル

2013年11月 「UNDER CONSTRUCTION」
マガジンハウス

写真展他活動多数

●西山氏 講評

四半世紀にわたって土木施工をはじめとして主に土木の写真撮影をしてきましたが、土木写真家は土木の優れた技術や迫力、美しさなどを一般の方々に伝える役割を担っていると思っています。この度、「土木工事写真コンテスト」の審査に加わら

せていただいたことは、写真家だけでなく土木関係の方々にも写真をもっと習熟し、撮影していただき、より多くのすばらしい土木写真を産み出し、発表できるお手伝いができると思い、嬉しい限りであります。

さて、全体評に入りますが、コンテスト初回にもかかわらず、81点という多数の応募があったこと、そして橋、ダム、トンネル以外にも港湾、土工などバラエティのある現場の作品が集まったことに驚いております。もっと驚くことは、前例が無いにもかかわらず、何気ない日常の現場をうまく切り取った作品や、中には写真技術を駆使した作品も見られ、ほかで審査に携わっているコンテストよりも良い作品の割合が非常に多いことです。発注者への提出写真など日頃カメラや写真に親しみもあるのでしょうが、やはり、理工系の多い土木関係の方々にはカメラや写真が結構好きなのでしょう。今後が楽しみです。

現場では普段見慣れてしまっている構造物や重機などの風景は、一般の方々にとっては非常に興味深い非日常の風景です。現場内はシャッターチャンスの宝庫といっても過言ではありません。あまり考えずに先ず撮ってみましょう。昭和の時代には「なるべく見せたくなかった土木」は、もはや「見せる土木」に変わりつつあります。現場を「見せる」ことが施工の正確さと現場の安全とにつながるのです。わたくし共ども写真という手段を使って、もっともっと「魅せる土木」にしようではありませんか。期待しております。

土木写真家 西山 芳一